

HI (Hospital Identity) は、病院の文化や特性・独自性を高めるうえで重要な、ブランディング戦略です。その HI を高めるために白衣がどのような力を発揮するか。この連載では、デザイン性だけではなく白衣へのこだわりをお伝えしていきます。



採用商品：MPA-3907(前列4人)

「これを着て働きたい」とのスタッフの思いを第一に、ユニフォームを決定した

スタッフの希望を最優先に採用した上質なデザインのユニフォームにより、働くモチベーションが向上

明るい気持ちで前向きに業務に取り組めるようにと、スタッフの思いを尊重してマッキントッシュ フィロソフィー メディカルウェア®のユニフォームの採用を決めた紀の川病院。現場の声を重視して選んだユニフォームについて、宮本芳紀看護部長にお話をうかがいました。



宮本芳紀
看護部長

ユニフォームがもたらす明るい気持ちがいよいよ看護につながる

ユニフォームは「衣食住」の「衣」にあたる大切なものです。自分自身が選んだものを着て、モチベーションを上げてもらうことを重視し、スタッフたちが決めたマッキントッシュ フィロソフィー メディカルウェア®の女性用ユニフォームを採用しました。

高価格帯ではありますが、その点は採用のネックになりませんでした。現場の希望を最優先にしたいと考えていたからです。スタッフは価格を知らなかったのですが、デザイン性や品質のよさを見抜く目をもっているんだなと感じましたね。

また、心の動きが相手に影響を与えるという、精神医学の「力動」という考えがあります。例えば、看護師が明るい気持ちで接すると、患者さんの気持ちも明るくなるとされています。気に入ったものを着ていると、気分は高まりますよね。

このユニフォームは力動的な視点からも、よりよい看護につながっていると思います。

個別性を重視した看護に通じるカラー選択 温かみのある病棟デザインにもマッチ

カラーはプラム、パウダーブルー、ブラウンの3色から、1人ひとりが選べるようにしています。涼しげな色を気に入ってパウダーブルー1色に決めているスタッフもいれば、季節ごとに色を変えるスタッフもいますね。そうした自由さは、個別性を重視する当院の看護の姿勢にも通じていると思います。

かつてはユニフォームの色を白に統一していました。医療にかかわる聖職者として白にこだわる意見もあるでしょうが、今のカラフルな院内は親しみやすいイメージを与えますし、温かみのある病棟のデザインにも合っていると考えています。病棟の雰囲気も明るくなり、患者さんからも「きれいな色ですね」とコメントをいただきました。

デザイン、色、着心地、すべてに満足いくユニフォームで業務への姿勢も意欲的に

以前は役席クラスが中心となってユニフォームを決定していました。しかし、現場からはデザイン面などで不満の声が上がることも。そこで、「スタッフが着るのだから、スタッフ自身が選んだものに」と考えたのです。

選んでいるときの、楽しそうなスタッフたちの姿が印象に残っていますね。実物に触れて、試着もし、「デザインが都会的でおしゃれ」「色が好き」「体が引き締まって見える」「軽くて動きやすい」といった理由から、こちらに決めました。

私自身も、とても上品ですてきなデザインだと思います。生地素材については、軽い着心地で肌触りがよく、機能性の高さを感じていますね。前向きな気持ちで業務に取り組むうえで、ユニフォームの果たす役割は大きいと思います。



生地の肌触りや伸縮性のよさ、着心地の軽さといった機能性もスタッフから好評



色はそれぞれが好みに合わせて選択。個人の思いを尊重する、看護部としての姿勢が表れている



袖のあしらいなど魅力あるユニフォームが、スタッフのモチベーション向上につながっている



紀の川病院

和歌山県紀北地域の精神科医療の中心的な役割を担うため、医療法人宮本会の2つ目の病院として1970年に創設。以来、質の高い医療を提供し、地域社会に貢献。訪問看護などを実施し、在宅での療養生活の支援、社会生活の指導などにも積極的に取り組む。2006年に病院全体を新築。現在は「精神療養病棟」「精神科急性期治療病棟」「精神科一般病棟」の3種4病棟体制で運営。2010年に「精神科急性期治療病棟」の認可病院となる。機能分化によって医療の専門性を高め、専門多職種によるチーム医療を確立することで、充実した治療の実現をめざしている。
〒649-6246 和歌山県岩出市吉田47-1
http://www.kinokawa-hp.jp



TEL: 03-5289-7891
E-mail: hp-info@nagaiben.co.jp
ホームページ: https://www.nagaiben.co.jp